

出席者 町教委(教):高橋 篤(議長) 鈴木淳二(教務副長) 鈴木和芳(課長) 中村浩二(指導主事) 八谷陽平(指導主事)
知教労(組):佐田京美 岡崎良久 中沢晶子

1 南知多中学校について

組 来年度再編される南知多中学校は、先生が一人加配され、教室数も確保できると聞く。3年生は3学級でなく4学級にするよう要望する。

- ・3学級で35人程度の学級に、4学級で26人程度の学級になる。26人ぐらいの方が、よきめ細かな教育ができる。
- ・2,3年でも、新たに知らない生徒が集まり、新学級では人間関係を築くところからスタートする。通学も遠距離になる生徒も多く、環境の変化が非常に大きい。その上、3年生は受験に向けてのプレッシャーもあるので、手厚い教育環境をつくっていくことが必要だ。
- ・現場教師、生徒、保護者に学級の人数についての要望を聞いて進めてほしい。

教 4学級ではなく3学級で編成する。

- ・南知多町の子どもたちは、大きい集団の中で過ごす経験が必要だ。高校で急に大勢の中に入り、つらいと感じるケースがある。大人数に慣れた状態からのスムーズな移行ができる。
- ・「教える」教育では少人数も効果的かもしれないが、これからの教育は、多くの人と話し合って主体的に学習していくことが求められるものだ。
- ・島からの通学生は、荒天時は遠隔授業が必要な時もある。加配された教員は担任としてつけず、不測の事態に対応できるようにしたい。
- ・心のケアについては、町内の各学校から教員を配置し、「知っている先生」に相談しやすくする。
- ・代表生徒から今の学校を混合したクラスを希望する声を得ている。

組 南知多中学校の施設について、プレハブ校舎を増築して特別教室にあててほしい。

- ・内海中校舎に、約3倍の生徒が入ることになり、凶面から考えると手狭だ。普通教室に変更する部屋がある一方、特別教室が減る。再編したことで教育環境が悪くなってはならない。
- ・技術科の教師から、「教科書はWindowsの使用で記載されていて、iPadを使っているのなら、Windowsを使えるコンピュータ室は欲しい。情報教育をすすめたりプログラミングしたものを動かしたりするにはコンピュータ室は必要。」との声を聞いた。

教 プレハブを建てる予定はない。

- ・以前3学級ずつの時代もあり、不可能ではない。
- ・費用の余裕はないし、プレハブを作ったとしても1年間だけ。費用対効果がよくない。
- ・技術科の教師には南知多町でも確認し、クロムブックで問題はないと聞いている。パソコン教室は今年の夏すでに撤去している。

教 エアコンは他校から移設し、全ての教室に設置する。体育館は規格が違うのでまだ設置できない。
令和10年度開校の新設校は、35人学級を加味したものにする。

2 部活動につて

(1) 中学校の部活動

- 組 部活動の地域移行について見通しはあるか。
- 教 令和7年度までというのは重々承知している。人材の確保が難しいが、条件が整った種目から移行を進めることを考えている。いつ、何をどうしてという明確なビジョンは作成できていない。
- 組 予算的なものは組んであるか？
- 教 5年度の当初予算については組んでいない。人材があれば補正予算をつける。
- 組 土日の部活動、朝部活はどうするか。
- 教 南知多中学校では朝部活はない。最長下校時刻は17:15。冬場11月~1月の部活動はなかなか時間を確保できない。なので、土日どちらかは半日の活動になるだろう。指導は先生にやってもらいたい。
- 組 休日に先生に指導させるのは問題だ。
- 教 指導者の確保が難しい。技術だけではなく安全面もかかってくるので受け手がいない。
- 組 全てを教員がやるという前提で進めるのは酷い話だ。多忙化解消の観点が抜けている。
地域移行のためには、学校の中で部活動の占める割合を低くし、地域で増やす両方が必要。
- 教 サッカーなど種目によっては早めに地域移行できそうなものもある。やり方はまだ未定。
武道は受け入れられる。文化的なものは人材があり、移行できるのではないかと聞いている。
- 組 社会教育課で小中学生に提供できるようなものを発掘して行ってほしい。
少人数でも家でも練習できるように考えていかないと地域移行の部活は難しい。部活動のあり方は今の部活と同じと考えない方がいい。
- 教 バスも船も試験的に無料になっているので、直接

文化的なものを見てくるように勧めている。文化芸能に触れるようにはしていきたい。

組 部活動の紹介のときに、地域で活動している人たちも紹介されるとよいかと思う。子どもも部活以外の場を発見できるかもしれない。

教 学校祭で子どもの発表だけでなく地域の文化活動で希望するところは子どもたちの前で発表するよう依頼している。

(2) 小学校の部活動

組 部活動をしている小学校は南知多だけ。

教 先生への負担軽減は考えるが、無くすことは考えてない。地域移行は考えていく。

勤務時間内で部活指導は終わっているが、先生はその後に仕事をしていることは承知している。軽減策として、事務作業を手伝える支援員の配置を考えている。事務仕事で担えるのは、たとえば採点など。先生が部活動をしている間に支援員が事務をやる。

組 個別の採点状況の把握こそは教師の仕事。プライバシーの問題も生じる。支援員さんをお願いするのなら部活動を見てもらう方がよい。

教 部活動はけがなどの対応で責任がある。そういうこともあり、受け手がいない。

3 勤務時間について

組 休憩時間は一斉付与が原則。児童生徒が校内にいれば、現環境下では実際に休憩は取れないことを共通の認識としたい。

教 一斉付与の原則はその通り。休憩をとるのは困難というのは認識している。

組 共通の認識であると確認した。

教 今年度から「スズキ」から「勤革時」のシステムへと変えた。パソコンの立ち上げで記録できる。実態に合わせて修正は可能。

組 休憩をとった・とってないが、学校によって異なる。普段の子どもたちがいるときは休憩が取れないので修正するよう指示してほしい。取れていないのに休憩したことになっていると月に超過時間が16時間ほど違ってくる。土日も計上されていないところがないか確認してほしい。

教 休憩時間の認識はそろえていきたい。

4 教員が編集する冊子は必要か

組 教職員会などが作っているが、これを切ることで労働時間の削減にもなる。教員が編集した冊子が必要なのか、代用品もよいのか、そもそもいらぬのか、現場のアンケートを採ってほしい。

教 必要性について情報を集めるのは大事。

組 教職員会の出版物の編集を県費で出張させるのはおかしい。教職員会が出張費を出すべき。

教 今までは必要だということで校長が出張命令を出していたのだと思う。教員の研修にもなる。必要でなければなくしていくのは当然。

組 町費でまかなっている冊子は何か。

教 小学校…「明るい心」「知多の友」「観察と実験」「だいすき大愛知」「社会科作業帳」「夏休みの友」。「明るい心」は学級配付。

中学校…「明るい人生」「知多の友」「観察と実験」「新中学校体育実技」「数学のリープ」「はばたく中学生」。「明るい人生」と「中学生活と進路」は学級配付。

学校現場との相談で減らしたい。タブレットが1人1台あり、学習AIDリルを来年に向けて入れていく。保護者負担を削減していきたい。

5 校務の仕事について

組 校務主任が除草や剪定などをしているが、本来教員の仕事ではない。

教 草刈りは用務員もやるようにしている。校務は担任をしているが、実際には先生に頼るところもある。

組 実質、用務のできる人員を配置するべきだ。工事の立ち会いなどの事務は教育委員会で。

教 校務がやることは極力ないようにしている。

6 その他

組 学校訪問は、出退校時刻の記録も含めて多忙化解消の取組みなどをチェックしてほしい。

働き過ぎ教員は個別に把握しているか。

教 把握している。少経験の人に指導もしている。

組 業務を減らすように指導してほしい。

教 学校訪問の指導案などは冊子にせず、クリップ止めにしている。タブレット化も考えている。

組 勤務時間外の電話は管理職で対応してほしい。勤務時間を意識する行動が必要だ。

教 なかなか対応はできてないが、南知多では夜間の電話はほとんどないと把握している。

組 特定事業主行動計画は教職員は各自治体が管理することになっているので適用してほしい。

組 現在、未配置教員の人数はどうか。

教 3名。教務校務が担任をして対応。中学校では専科教員と非常勤で対応してもらっている。

組 補充に入っている人は負担が増えている。何とかなっているのもそのまま、ということのないようにしてほしい。町の広報など、あらゆる手段を使って教員を募ってほしい。

(以上)